

1. 評価報告概要表

作成日 平成21年 4月20日

【評価実施概要】

事業所番号	1070501240
法人名	社会福祉法人愛光会
事業所名	グループホーム愛の里にった
所在地	太田市新田市新井町145-1 (電話) 0276-60-9661

評価機関名	特定非営利活動法人 群馬社会福祉評価機構
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12
訪問調査日	平成21年3月27日

【情報提供票より】(平成21年 3月 2日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 17年 9月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 8人 非常勤 1人 常勤換算	7.8人

(2)建物概要

建物構造	木造平屋造り		
	1階建ての	1階 ~	1階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(月額)	43,000 円	その他の経費(月額)	預かり金管理料1,000円/月・水道光熱費 400円/月	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無		有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	400 円
	夕食	300 円	おやつ	円

(4)利用者の概要(3月 2日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	0 名	要介護2	2 名		
要介護3	4 名	要介護4	1 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 87.5 歳	最低	74 歳	最高	94 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	荒木医院 ・ 山鹿歯科医院
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

明るくモダンな建築に落ち着いた和風の雰囲気調和し、居心地の良いホームである。どこからでも入居者の様子が観察できる間取りになっており、職員と入居者がゆったりと生活している。日当りの良い広い和室に置かれたコタツは入居者の昼寝のスペースになっている。スタッフは一人ひとりの入居者に対して温かな思いを持って接し、優しく語りかけている。入居者の平均年齢は高いが、元気な笑顔と明るい会話であふれ、アットホームな雰囲気である。ホームの運営管理やスタッフの研修、充実したケアなど、母体施設と連携し地域に根ざしている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>評価結果をスタッフ全員で確認し話し合い、優先順位をつけて洗剤の取り扱いや収納方法について改善に取り組んでいる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者は、月1回の会議で評価の内容をスタッフに伝え、リーダーとケアマネージャーに相談して記入している。スタッフは、記入済みの自己評価票を確認している。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4、5、6)</p> <p>運営推進会議は2ヶ月に1回開催され、行政の実地指導や外部評価の結果などを報告し、集約した意見を運営の参考にしていく。最近の会議では、認知症について取り上げ意見交換をしている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7、8)</p> <p>苦情箱を玄関に設置し、「どんな事でも意見をもらいたい」と説明している。運営に関する苦情はなく主に入居者間に関する意見が多く、家族は個々にスタッフに相談し、話し合い解決している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の行事に参加する際には昔の友人と交流したり、地域の図書館に本を借りに出かけたり、散歩中に挨拶を交わしたりしている。また、近隣の方が野菜を届けてくれる。近隣との関係が良好で、万一の災害時には協力を得られる体制がある。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人全体で地域との関わりを大切に住民のニーズに対応できるサービス提供を心がけ、スタッフ全体に浸透させることを目的に法人の理念を『地域の方に信頼され地域とともに発展し、地域の方が安心してご利用いただける空間づくり、在宅と入居の両面からご利用者の自立支援に向けた生活をサポートしていく』と謳っている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	年1回、理念についての社内研修を行い、理念に基づいた年度目標をスタッフ間で作成している。また、理念を常に確認できるようホーム内に掲示している。隔月で発行される「愛の里にった新聞」に毎回記載し、外部に向けて発信している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	公民館活動サークルの歌や演奏、読み聞かせなどの訪問を受け入れている。JA祭りやコスモス畑祭りなどの地域の催しに参加したり、保育園の運動会や納涼祭に出かけている。	○	老人会や自治会などの地域活動に参加し、より一層地域に根付いたホームとして益々発展されることを期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	月に一回開催される会議で、管理者が評価の内容をスタッフに伝え、評価の意義と重要性を皆で確認している。リビングルームに昨年度の評価結果を掲示している。昨年の結果をスタッフ間で話し合い、優先順位を付けて改善している。今回の自己評価は、管理者とケアマネージャーで相談して記入し、スタッフが確認している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、区長、民生委員、市の担当者、家族代表が出席し、2ヶ月に一回開催している。実地指導や外部評価の結果を伝えて、参考意見を聴取している。最近の会議では、認知症ケアについて取り上げ意見交換を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	特別養護老人ホームが併設であり、中学生の社会体験学習の受け入れを行っている。今後も、子供の生涯学習に協力していきたいと考えている。	○	公民館で行われる住民向けのセミナーなどで高齢者の健康管理の話をしたり、認知症の相談を受けたり、地域に貢献したいと参加を申し出ている。今後も、特別養護老人ホーム併設の利点を活かして積極的に活動されることを期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホーム全体の事については、隔月に発行されるホームの新聞で家族に報告している。毎月の支払いは面会を兼ねて現金徴収とし、支払いの際や面会時に個人の記録ファイルを開示して生活状況や健康状態などについて報告している。小遣いとして5,000円程度を預かり、3ヶ月に一回金銭管理の記録を郵送している。その他、必要に応じて随時の個別報告を行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情箱を玄関に設置し、「どんな事でも意見をもらいたい」と説明している。意見や要望は、家族が個々にスタッフに伝えている。運営に関する苦情などは特になく入居者間の問題がほとんどで、伝えられた内容を会議で検討し早期に対応している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	この一年間に、異動や結婚退職によりスタッフの半数が入替わっている。退職について入居者に説明し、退職時には入居者と一緒に花束を手渡してお別れ会をしている。退職者は、退職後も時折入居者に面会に来ている。新スタッフは、入居者と共に過ごしながら早期に馴染むよう努力している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月1回法人内研修を開催し、常勤スタッフ全員が出席して倫理、法令、プライバシーなどの研修を行っている。全体研修の後に分科会を開催し、認知症などについて勉強している。また、人事考課制度を活用し、スタッフ個々の能力に応じた目標を設定して段階に応じた育成を行っている。	○	外部研修についても、今後計画的に参加の機会を設けたいと計画しており、実現されることを期待する。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス連絡協議会主催のフォーラムに参加し、同業者と交流している。事例を発表し勉強の機会としており、今後もスタッフが交代で参加して交流を深めていく。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人と家族に見学に来て頂き、詳細を説明した上で本人が納得していることを確認している。入居後、帰宅願望のある方には自宅への外出を繰り返しながら、安心してホームに馴染んで頂けるように支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	若いスタッフが多く、昔のことや経験のないことを入居者から教えていただいている。お茶や食事の時間は、一緒におしゃべりをしながらゆったりとくつろいで過ごしている。お米とぎや盛り付けなどできることは、「一緒にして頂いていいですか」「お願いします」と声をかけていただいている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや希望を把握し尊重するケアに努め、見守りや声かけを強化している。居室の施錠を希望する入居者には、自己管理できるように支援している。聴力や言語に問題がある入居者、意思表示が困難な入居者には、一緒に時間を過ごしながら意向を把握するように努めている。		
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	面会時に入居者の状況を伝え、家族の意見や希望を聴取して毎月の会議で検討している。担当制でケアし、介護計画は家族と相談して作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は、3ヶ月に一度定期的に見直しを行っている。状態が変化した際には、特に家族の希望を取り入れて対応している。しばらく面会がない場合には電話で面会を依頼し、家族が継続してケアに参加できるように支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	以前併設していた通所サービスのホールを活用して、入居者と家族と一緒に食事を摂れるスペースにしている。和室には家族の宿泊が可能である。新聞などの情報から、要望に応じて季節の花を見に出かけたり、3ヶ月に一回程度の外出など希望に合わせて外出を支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は家族と相談して決定している。専門医に受診する際についても、家族の意向を確認している。ホーム協力医療機関への受診はスタッフが同行するが、個人的な医療機関への受診は家族が付き添っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームでの終末期ケアは、今まで一名の入居者に対応している。医療の必要度が増した時点で、療養方針を家族と相談している。協力医療機関から往診があり、家族に頻りに情報を提供して、面会者を含めてスタッフ全員で方針を共有して対応している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	管理者は専門的な接遇研修を受講し、スタッフに伝達している。入居者に「・・・さん」と丁寧に呼びかけ、穏やかな言葉遣いで接している。また、個人情報の取り扱いに留意し、介護記録等はスタッフルームで管理している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの方針としてその人らしさを大切にした支援に心がけ、基本的な日課は定めているがそれに捉われることなく、その日の天候、入居者の体調や希望にそった過ごし方をしている。スタッフが同行し定期的に図書館に行き、本を借りて来て読んでいる入居者もいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	“食”からの健康に留意し、献立は法人の栄養士が作成している。楽しくおいしく食べることをモットーに、料理に合わせた食器を選んで使用している。毎食スタッフが一緒に食事をしながら、必要に応じて介助を行っている。後片付けは、入居者が自分の仕事として無理なく協力している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者がそれぞれ週に2回はゆっくりと入浴できるように一日2、3名を目安としてを大まかに予定を立て、毎日午前と午後準備をして、入居者のその日の気分に対応している。季節に合わせた柚子湯や菖蒲湯などを楽しみ、好みに応じた入浴剤も使用している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人や家族から聴取した事を参考にして、畑で野菜を作る支援をしたり、家族や友人に手紙や電話をする支援を行い、それぞれが楽しみごとを持てるように支援している。入居者と一緒に畑で野菜を栽培し、収穫した野菜で季節感のある料理を楽しんでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	昼食は母体施設で調理し、毎日スタッフが取りに行っている。その際に、出来るだけたくさん入居者と一緒に出かけて手伝いや気晴らしの機会を作っている。その他、新聞広告から買い物に出かけたり、花見などの希望があった時には皆で出かけている。	○	高齢の入居者が多く希望がほとんどないが、気候の良い時にはスタッフから散歩や買い物に誘うなど外出の選択肢を提供し、生活の幅を広げ更に生き生きと暮らしていけるよう期待する。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームの方針として、鍵をかけないケアを徹底している。居室の窓は各自で開閉しており、スタッフが安全管理している。また、居室の鍵を自ら管理している入居者もいる。ホーム外への徘徊行為のある入居者にはスタッフが一緒に出かけ、気の済むまで付き添って歩くように支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害対策マニュアルを作成し、ホーム内に掲示している。また、運営推進会議で区長や地域の方に避難の協力をお願いしている。今後は、定期的な避難訓練を隣接の特別養護老人ホームと合同で行い、協力態勢を強化していく予定である。	○	地域の方に避難の協力を仰いでいるが、今後更に具体的にどのような協力が必要になるかを知るためにも避難訓練に参加して頂けるよう期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの毎日の食事摂取量と水分摂取量を記録し、毎月の体重測定の結果と照らし合せて分析し、必要に応じて嗜好に合わせた代替食や粥食を提供している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂ホールや廊下などの共有スペースは床暖房を取り入れ、大きく設置された天窓には夏はカーテンを掛けて光を調節している。調度品も季節の模様替えを行い、生活者として心地よく暮らせるように工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	基本的に持ち込み品に制限はしておらず、それぞれの居室には慣れ親しんだダンスや机、飾り戸棚などが持ち込まれている。また、帽子かけには散歩用の帽子や上着が掛けられ、生活者として安心した居場所となっている。		